

令和8年度 新たなまちのかたちに関する意見交換会 飯田地区 協議記録

日 時	2026 年 8 月 30 日（日）18:00～19:20
場 所	飯田小学校 体育館

参加者：36 名

【開会のあいさつ】

泉谷区長会長：

本日は「新たなまちづくり」をテーマに、意見交換会を開催する。飯田町復興まちづくり協議会では6つの部会を中心に方向性をまとめ、市にもお伝えしている。そのような内容も含め、これからの飯田町のまちづくりについて皆さんで話し合いたい。

また、9月19日（土）に緑丘中学校の体育祭、9月26日（土）に飯田小学校の運動会が開催される。地域の方にも参加してほしいとの依頼があったので、この場を借りてお願いしたい。

泉谷市長：

能登半島地震発災から2年8か月、奥能登豪雨からも、まもなく2年となる。多くの皆様のご支援により、応急復旧から復旧、そして復興へと進み始めたところである。

飯田町では、7月20日、21日の飯田燈籠山祭りが昨年以上の熱気とにぎわいで開催され、8月15日には7年ぶりに飯田町の盆踊りも開催された。行政が復興を進めることはもちろんであるが、それぞれの地域の皆さんの復興に向けた取組みが重要であり、これまでの活動に心から敬意を表したい。

「新たなまちのかたち」については、昨年春に「スズレコードセンター」、今年春に「みんなの家」、7月19日にはアーティスト・イン・レジデンスとして「のとすずハウス」がオープンした。こうした拠点が今後の飯田町の復興に重要になってくると思う。また、飯田町復興まちづくり協議会から意見書もいただいているので、本日はその内容も含めて協議したい。

飯田町の再生・復興に向けては、飯田港を今後どうしていくかが大きなポイントになると考えている。現在、埋立てを進めており、今年度から来年度までかかる見込みである。また、埠頭等については国土交通省の権限代行で復旧を進めていただいております、こちらも来年度までかかる見込みである。その間に、飯田港をどのように活用するかを皆さんと共に考え、具体化して進めていきたい。本日は石川県土木部珠洲土木事務所にも出席いただいている。インフラ関係の質問についてもご意見・ご質問をいただきたい。

復興公営住宅については、吾妻町の旧専売公社跡地の団地で21戸、鍛冶町団地で30戸、今町団地で10戸、健康増進センター移転後に整備する栄町団地で60戸を予定している。6月に入居申込みを受け付け、珠洲市全体で復興公営住宅の入居希望が707世帯、木造応急仮設住宅を転用する賃貸住宅の入居希望が195世帯となった。飯田町の4つの復興公営住宅は、おおむね整備予定戸数と申込数が一致している。入居希望者が入れないことのないよう丁寧に調整していきたい。

学校統合については、6月30日に「より魅力ある教育環境のあり方検討会」を立ち上げ、これまで2回の検討会を実施している。珠洲市全体で小学校1校、中学校1校だけでは選択肢がなくなるため、考えなければならない。大谷小中学校は現在通われている生徒が4名という状況であるが、生徒、保護者の皆様、地域の方々が何としても残してほしいという声がある。大谷小中学校を市外・県外からも児童生徒を受け入れる特認校として残す方向で話を進めている。宝立小中学校についても残していく方向である。また、みさき小、三崎中については統合の時期をどうするかという議論はあるものの、統合の方向で進んでいる。飯田小学校を含め空き校舎が出てくるため、空き校舎を今後どう活用するかも課題となる。新しい小学校を緑丘中学校の敷地内に整備するのか、市民図書館周辺で新たな用地を確保するのかなども含め、今年度中に方向性を見出したい。

消防団飯田分団の待機所については、栄町のJAグリーンセンターの跡地を活用して整備する案が有力となっている。JAグリーンセンターは、新店舗整備後に販売機能等が移転する予定である。皆さんからご要望、ご意見、ご質問をいただき、まちづくり協議会で積み重ねてきた議論と行政の考えをすり合わせる有意義な時間にしたい。

【資料説明】

- ・地区別まちづくり計画について

【意見交換】

市長：

飯田町復興まちづくり協議会では6つの部会に分かれて議論を進め、飯田港を中心とした大規模な構想を意見書として提出いただいている。まず、もともと漁船が係留していた区域について、漁協や漁業者との協議はこれからだが、プレジャーボート等を係留できるマリーナのような施設を整備できないかと考えている。県で整備いただけないか要望をしているが反応は得られていない。県事業が難しければ、国の補助等も活用しながら実現に向け検討したい。

子どもの遊び場については、飯田高校下において屋内型遊び場の整備が進められており、予算規模は10億円を超える見込みである。さらに大規模な屋外型遊び場を港に整備するのは簡単ではないが、マリーナ等と合わせ、飲食スペースやチャレンジショップのようなものを比較的低コストで整備することは考えられる。

お祭り会館についても要望をいただいているが、燈籠山祭り専用の大規模施設に多額の予算を投じるのは難しい。飯田わくわく広場は、燈籠山の製作だけでなく、町の様々な取組みやイベントにも使える場所として大きな予算をかけずに整備した。燈籠山の地山（山車の台車部分）をどこに保管するかは引き続き課題である。

港の活用については外部からも様々な提案が挙がっている。そのような話も含め飯田の港を活用し、賑わいの創出や交流人口の増加、さらには今後の大規模災害時の支援拠点としての活用を考えていきたい。その中で、飯田町復興まちづくり協議会の方々と飯田港について具体的にどこまでどのように検討していくか考えていきたいと思う。

参加者：

2年ほど前に、鍛冶町の復興公営住宅予定地に土地を持っている方に、市が住宅整備の意向を聞いたが、連絡がなかったとのことであった。現在どのような状況か。

珠洲市：

鍛冶町については、測量業務は終了しているが、未発注のため配置図・平面図がなく、税務署との協議に進んでいない。入居者の調整を行い、今年度中に発注した上で用地交渉に入りたい。

参加者：

飯田分団の待機所を栄町のJAグリーンセンターの跡地に整備する案について、以前は飯田の中心部に消防分団があり、まちの活気にもつながっていた。まちの活気が失われる可能性も考えられるが、その点はどう考えているのか。

市長：

消防分団の待機所は、まちのにぎわいという観点よりも防災性を重視する必要があると考えている。津波や洪水のハザードを避けること、今回の地震でも栄町周辺の地盤が比較的しっかりしていたことなどを踏まえ、候補地としている。復興公営住宅については、707戸のうち356戸は発注済みで、吾妻団地も既に発注が完了しており、今後起工式を迎える予定である。残りは今年度中に全て発注を済ませ、できるだけ早く整備を進めたいと思っている。

参加者：

飯田町復興まちづくり協議会では、港の整備を飯田町のまちづくりの中心的な取組みとして議論してきた。市長から、外部の方々から様々な提案があることを初めて聞いたが、地元としては飯田港を観光の中心にしたいと考えている。過去にも「珠洲ベイエリア構想」やシーサイド周辺でのイベント開催など、港周辺は珠洲の観光の中心となってきた。

芸術を活用した全国から人を呼び込めるような大きな目玉を整備し、飯田町が珠洲の商業・観光の中心として再生できるようにしてほしい。また、飯田燈籠山祭りは飯田町の大きな見せ場なので、祭

りも観光に役立てていきたいというのが、部会の話だったと思うので、報告させていただきたいと思う。また飯田町の方々の意見もいただければと思う。

市長：

復興基金等の財源には限りがある。活用できる財源はおおむね70億円程度で、統合後の学校整備も必要である。また、707戸の復興公営住宅の整備については、事業費の1/4を市が負担することとなる。その分については、借金し、家賃収入により返済していく形となる。市内各地区から要望のある道路改良等にも費用が必要になる。原形復旧は国の高い補助率を活用できるが、道路を広げる整備や新たな道路をつくる改良は別事業となり、適用される補助金が社会資本整備総合交付金等となるため、補助率が低くなり市の負担割合が大きくなる。

夢や希望を持てる復興は必要だが、将来の市財政が逼迫しないことも考えなければならない。皆さんの思いを受け止めながら、少ない費用でも効果が高い事業方法や、何としても実現すべき事業を一緒に見極め、具体化していきたい。

参加者：

鍛冶町の復興公営住宅予定地が乗光寺の裏側に隣接している。隣地との境界を整理した際、寺の裏側の出入口を塞がないことを前提に線引きした経緯がある。公営住宅整備によってその出入口が塞がれると、日常の出入りや今後の建て替え計画にも影響する。田舎の土地では、敷地境界や通路を近隣同士で共有的に使っている場所もある。新しい住宅を整備する際、既存建物の出入りやこれまでの利用実態にも配慮してほしい。

珠洲市：

窓口で相談いただいた内容は把握している。鍛冶町団地は30戸を計画しているが敷地が広いため、隣接地の出入口等に配慮することは可能と考えている。計画が具体化した段階で、事前に相談し進めたい。

参加者：

飯田相撲教室では女子部員3名が活動しているが、現在は大会出場に向けて、週1回、緑丘中学校の室内練習場へ出向き、中高生の時間帯とは、ずらして稽古している。以前のように放課後など日常的に練習できる環境がなくなっている。

暑さや雨への対応も考えると、従来の屋根付き土俵ではなく、外から活動の様子も見えるような屋内型の相撲道場を飯田のまちなかに整備できないか、これから検討していきたい。

市長：

クラウドファンディング等により、飯田町の皆さんで対応できる内容か。

参加者：

まだたたき台もできていないので、これから具体化していく話になる。

市長：

旧飯田保育所の園庭については、震災前は芝生のグラウンド・ゴルフ場として整備する話があったが、現在は応急仮設住宅が建っている。いずれ仮設住宅がなくなれば、その敷地の活用を改めて考える必要がある。また旧図書館も今後取り壊す予定であり、その跡地など公有地も出てくる。

飯田町には、更地となった民地も増加しており、景観について考えなければならない。また、公共の土地・建物をどのように配置し活用するかを、まち全体のパズルとして考えていく必要がある。飯田小学校が空き校舎となった場合には、体育館を避難所や運動の場として残し、校舎を地域活動や文化活動の場として活用できると考えられる。場合によっては祭り関係の保管などに活用する案も考えられる。しかし、その場合、それまで数年間、今のまま民間の倉庫をお借りすることにはなるだろう。年間賃借料の2分の1を補助する市の制度は活用されているか。

参加者：

活用している。

参加者：

生涯学習センター等を利用して様々な活動をされている方もいる。飯田小学校のような大きな建物が空くのであれば、教室を貸し出し、音楽、吹奏楽、軽音楽、各種文化・生涯学習活動の練習や活動場所として使うこともできる。実際に金沢の山奥の方では、音を出しても問題ないということで、バンドの練習場所として利用されているところもある。また、バンドをやっている人たちが、音を出せる環境を求めて、そのような山奥の場所を利用しているケースもある。駐車場が確保できれば、市内外の団体にも活用してもらえるのではないかな。

参加者：

学校校舎を、奥能登国際芸術祭のようなアート展示と燈籠山展示を組み合わせた施設として活用する案も考えてみてはどうか。燈籠山を見ることができ、アートを見ることができ、作業ができる場をつくり、祭りの一部を常設展示できれば観光にもつながるのではないかな。

市長：

燈籠山は、5階建ての珠洲市役所をすべて使うくらいの高さである。3階建ての飯田小学校に収めるのは高さ・規模の点で難しいと思うが、数年ごとに制作する人形など、一部を展示することは考えられる。学校の活用はまだ先の話になるが、今後いろいろな案を出していただきたい。

参加者：

現在、飯田港の復旧を進めているが、単に元に戻すだけなのか。津波被害を経験した地域として、防潮堤など津波対策を加えた形で復旧する計画になっているのか伺いたい。

市長：

飯田港について、新たに大きな防潮堤を設ける計画ではない。ただし、港湾部を相当量埋め立てるため、今回と同様の津波が来た場合には、陸側への波の影響を和らげる緩衝帯として機能することが期待できる。今回の津波でも、シーサイドや一部地域は被害が大きかった一方、ラポルトすず周辺は大きな津波被害が確認されなかった。港や岸壁の形状により被害に差があった。

市内全体の海岸堤防については、基本的に既存の高さを基準にしながら、不連続な箇所の高さをそろえることや、海側に道路を新設・拡幅するなどの対策を組み合わせる形で復旧を進めている。

参加者：

旧消防庁舎に現在、一般社団法人すずバスが入っているが、この建物も将来なくなると聞いている。

市長：

旧消防庁舎は電気が十分にいきわたっておらず、施設内のお手洗いの改修も進んでいない等、十分な復旧ができていない。いずれ撤去する予定である。また消防庁舎を高台に移設してよかったと思っている。元の場所の場合、救助に対する初動が遅れていたであろう。

参加者：

今回の津波では海沿いの建物が波を遮るような役割を果たした面もあると思う。今後の津波等の対策はどうなっていくのか。

市長：

市内全体の海岸堤防については元々の高さで整備する方針となっている。所々で堤防高が異なっていた箇所もあったが、それも面を合わせるということと、若干海の方に道路を新たに整備して拡幅するという様々な対策を講じながら進めていく。

参加者：

飯田町復興まちづくり協議会では、これまで議論してきた内容を意見書として市に提出した。今後の議論を進めるためにも、市から「これは市で進める」「これは地域で取り組む」など、意見書に対する一定の返答や整理をいただけるのか伺いたい。

市長：

いただいた意見書について、一つ一つ「できません」「やります」と回答して終わるのではなく、これからも議論を重ねていくことが大事だと思っている。このような意見交換会も継続して開催し、各部会と市の担当課が直接議論する機会も増やしていきたい。飯田港の復旧にもまだ1年半程度はかかるため、その間に具体的な活用策を十分検討できる。意見書の内容は多岐にわたっているため、この場では答えられる範囲でお答えしたい。例えば、まちなかにある地図看板については、おそらく行政ではなく民間が資金を集めて設置したものと思われるため、対応はなかなか難しい。また、民泊特区として年間180日の営業日数制限を外してほしいとの意見についても、実際に民泊事業を行おうとして制約を感じている方がいるのか、既に運営している方からの要望なのか、あるいは規制緩和によって新たな事業者の参入を期待する趣旨なのか、そのあたりも含めて議論できればと思う。能登瓦の活用や雁木設置に対する補助制度についても、実際の利用者や事業者の存在が前提となるため、具体的なニーズを踏まえて検討する必要がある。電線の地中化については、一部であれば実施可能な箇所もあるかもしれないが、多額の費用を要するため、飯田町全体の無電柱化は相当厳しいという認識である。この点についても、重点箇所での実施を含め、議論していく余地があると考えている。このほか、公園の復旧、生業再建、子育て支援などについても、皆様のご意見を踏まえながら取り組んでいきたいと考えている。

参加者：

若山川について、豪雨時の氾濫が心配である。自宅の位置が海拔2mと低く、若山川本体が氾濫する前に、自宅横の用水から水があふれてくることがある。川底に土砂がたまっている箇所を掘るなど、対策をお願いしたい。

また、岩手県の被災地を見てきたが、津波避難路や避難所への案内表示がしっかり整備されていた。飯田町でも最低限、避難路や避難所の案内看板を整備してほしい。

市長：

若山川は震災・豪雨災害以前から石川県が拡幅工事を進めており、災害復旧と合わせて改修を進める。その工事の道半ばで豪雨災害ということになったが、下流側は、それほど大きな被害にはならなかった。また、床下浸水のところがあったが、甚大な被害まではいかなかった。ただし、若山川の一部で道路が冠水し、家も床上70cm程度浸水したところもあった。改修が進めばリスクは下げられると考えている。川だけでなく、用水、排水路、護岸等も含めて点検しながら対策を進めたい。

石川県：

若山川の改修は、将来的な計画規模を見据えながら段階的に川幅を広げている。災害復旧と合わせて拡幅工事を進め、完成後は今回の豪雨規模の水量についても、堤防断面を活用して流せるようにする計画である。

参加者：

堤防がいっぱいになる前に道路から水が吹き上がる。可能であれば、川を少し掘っていただきたいと思う。

市長：

川だけでなく用水や排水路とか、その辺りを含めた対応であると思われる。

参加者：

若山川の堤防に余裕があっても、浸透して道路に漏れ出すことがある。狐も堤防に巣穴を掘っている。

石川県：

河川の護岸については、しっかり進めていく。

参加者：

飯田町復興まちづくり協議会商業部会から提案した民泊の180日規制について補足したい。飯田町だけでなく、珠洲全体で宿泊施設が不足している。復旧事業や観光で来ても宿泊場所や飲食場所がなく、そのまま金沢方面へ戻ってしまう人も多い。

民泊は年間180日までという制限があるため、改修投資をしても収入を見込める日数が限られる。180日を超えると簡易宿所となり、消防設備等のハードルや投資額が大きく上がる。復興期間の一定期間だけでも特区として規制を緩和できれば、宿泊事業への参入や投資がしやすくなることから、提案している。

市長：

民泊の制度区分や特区の可能性について、具体的なニーズがあることが分かったので、早速制度上可能か確認したい。

参加者：

祭りの時に若い人や応援に来てくれる方が帰省しても、泊まる場所が足りない。知人宅や民宿に泊まっているが、宿泊料も高く負担が大きい。飯田町全体で管理できるような、安価に泊まれる場所を一つ用意できないか。

市長：

各地区でも同様の要望がある。応急仮設住宅の集会所については、利用者や管理者の合意があれば宿泊に活用できる場合がある。また、震災前から集落の集会所を一泊1,000円程度で雑魚寝の宿泊場所として提供している地域もある。飯田町でも町内会単位で活用できる集会所がないか話し合っていることは可能である。

参加者：

祭りに限らず、飯田町全体でそのような宿泊ニーズはあると思われるため、飯田町で一元的に管理できる宿泊施設があってもよいのではないかな。

市長：

旧学校施設を改修し、学生等が安価に泊まれる施設とする例もある。今後、学校統合後の飯田小学校等の活用を考える中で、宿泊機能を持たせることも一つの課題として検討できる。

参加者：

既存施設を活用することもできると思われる。

市長：

燈籠山が動くところはコンクリート舗装してくれという要望もあったかと思われる。

参加者：

燈籠山を曳く道路について、アスファルト舗装は夏場の熱に弱く、燈籠山の重量で傷みやすい。燈籠山を出しやすくするために、復旧工事の中で可能であればコンクリート舗装してほしい。

市長：

今後、上下水道、道路、排水路等をまとめて大規模に発注し、飯田町の復旧を加速する。工事箇所が増えると通行止め等が生活や祭りに影響する可能性があるため、工程調整が必要になる。コンクリート舗装は養生期間も必要となるため、祭り等の予定も考慮しながら進める必要がある。

珠洲市：

コンクリート舗装そのものは技術的には可能だが、原形復旧ではアスファルト舗装が基本であり、コンクリート舗装への変更は改良扱いとなる。費用も高く国の災害復旧補助の対象外となる部分が生じるため、まずは日常を取り戻すための復旧を優先し、その上で可能な箇所を検討したい。

市長：

復旧ではなくなるため、国からの 99%補助が入らないということだそうである。

参加者：

飯田町だけの話ではないが、病院についてお願いしたい。若い人が住めない、子どもを産むことのできない地域では復興にならない。将来を考えれば、若い世代に必要な医療にしっかり力を入れてほしい。

市長：

新病院の議論を始めた一番のきっかけは分娩である。2019 年秋に分娩に対応できる先生がいなくなった以降、珠洲市総合病院で分娩ができなくなり、産科医を確保しようとしてきたが、現在は、ワンオペは駄目だということで、金沢大学の大学病院から 1 人だけ産科の先生を派遣することはできないと言われた。1 人でも何とか誰かいないかと思い、金沢大学以外の先生を引っ張ってこようと思うと、いざというときに金沢大学の応援が得られなくなる。そこで能登空港周辺に周産期医療を担える病院を整備できないかというところから議論が始まった。

参加者：

救急医療についても、ドクターヘリはいつでも飛べるわけではない。救急車の場合も交差点が赤でも走行できるだけで、早く走行できるわけではない。金沢まで 2 時間以上かかる。能登空港付近に計画されている新病院について、分娩や救急を含めることにより、安心して暮らせる医療体制になるよう進めてほしい。

市長：

救急医療についても課題がある。現在、珠洲市総合病院には脳神経外科医がいるが、将来も同じ体制を維持できる保証はない。輪島、能登、穴水では脳神経外科医がいない状況もあり、七尾や金沢まで搬送することを考えれば、能登空港周辺の新病院を建てることで、能登地域に、高度救急機能を確保する意味は大きい。一方で、珠洲の病院で身近な医療をどこまで残すかも重要であり、市民が安心して暮らせる体制をできる限り整えたい。

参加者：

孫の出産の際に、ヘリコプターの都合がつかず、救急車で運ぶことになったが、2 時間以上かかってしまった経験がある。

市長：

ローリスクの出産だけでも対応できないかと思うが、医療関係者からローリスクがハイリスクに変わるケースが懸念されるとの意見をいただいた。出産の体制に対しても検討の余地がある。

若い世代が市外・県外から転入しようと考えた際に、分娩体制への不安は大きな課題になると思う。2019 年に分娩に対応できる先生がいなくなった後は、優秀な助産師さんが 6、7 人いらっしやっただので、院内助産ということでしばらく対応していた。そのときは輪島の病院から産婦人科の先生に定期的に来ていただいて検診してもらい、いざ出産のときにはその先生に来てもらって何とか回っていたが、今は輪島の病院にも産科の先生がいないので院内助産は途絶えてしまった。能登空港付近に計画されている新病院でも工夫の余地はあると思う。

市長：

飯田町復興まちづくり協議会から多くのご意見、ご要望をいただいていたため、それらを踏まえてお話もさせていただいた。これからは行政と地域で議論を重ね、できるだけ早く、効果的な形で復興の取組みを具体化していきたい。時間をかけ過ぎることなく、できるだけ早く効果的な形で復興に向けた取組みを進めていきたいと思っている。港の活用、避難路の表示、地域の宿泊環境、空き校舎の活用など、本日初めて聞いたという話もあったが、地域の中でもさらに議論していただきたい。飯田町の再生と、より魅力ある最先端の復興を皆さんと共に成し遂げていきたいと考える。

以上